

ニラのハウス栽培における ネギネクロバネキノコバエの発生消長及び防除技術の開発

環境部 病害虫係 星野航佑

1 成果の概要

ニラのハウス栽培における発生消長調査の結果、ネギネクロバネキノコバエの成虫は、2月から発生し、発生のピークは3～6週間で現れることが確認された。また、登録薬剤による防除、農ポリによる畝の被覆またはハウスの密閉処理を行うことで、本虫の密度を低減できる。

2 背景、目的

県内のニラ主要産地において、ネギネクロバネキノコバエ（以下、ネギネ）の発生が問題となっている。ニラでの被害は本県のみで確認されており、生態や防除技術に関する知見が不足しているため、発生消長の調査及び防除技術の開発を行った。

3 成果

- (1) ニラのハウス栽培において、ネギネ成虫は2月から発生し、発生のピークは3～6週間ごとに現れることが確認された（図1）。
- (2) ニラの登録薬剤による処理を行うことで、ネギネ頭数が減少する（図2）。
- (3) ニラ栽培終了後に、農ポリ（0.03mm厚）を用いた畝の被覆またはハウスの密閉処理を3日間行うことで、ネギネの密度を低減させることができる（図3）。

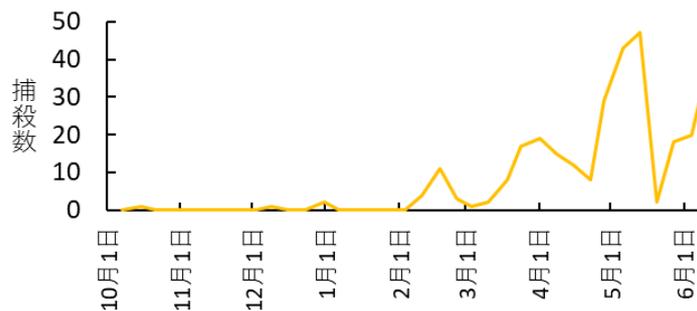


図1 ニラハウスにおける発生消長

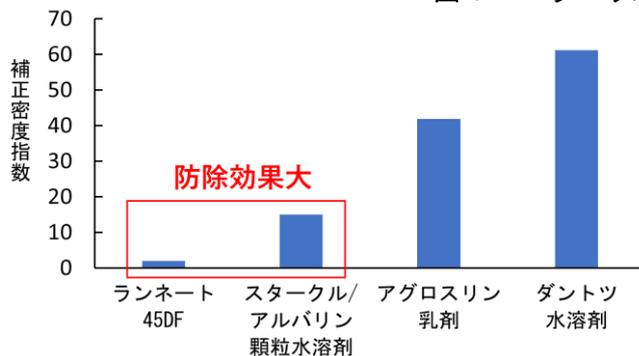


図2 ニラの登録薬剤による防除効果

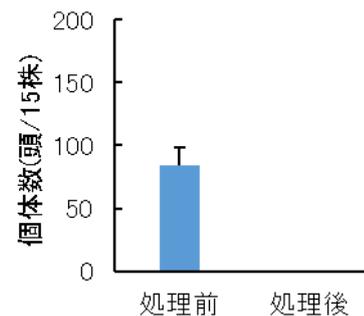


図3 畝の被覆及びハウス密閉による防除効果

4 成果の普及、活用方法

発生消長調査の結果から、ネギネの発生が増加する時期に合わせた薬剤処理を行うことで、効果的な防除対策につながることを期待される。また、熱を用いた防除技術を現場へ普及させることで、ネギネのまん延防止を図る必要がある。

なお、本研究の一部は、平成29～31年度レギュラトリーサイエンス研究委託事業「クロバネキノコバエ科の一種の総合的防除体系の確立と実証」において実施したものである。